



編集後記 From Editor

大阪市北区にある中之島公園の芝生の広場。気候の良い季節には、家族連れやカップル、友人グループなど、多くの人たちが集まる

個人的な話だが、昨年はなつかしい人の顔を見る機会が多くあった。卒業以来の中学校をはじめ、高校、大学と計3回の同窓会に出席したからだ。それぞれに、過ぎ去った年月をかみしめながら、旧友たちと思い出話に花が咲いた。共に50歳を過ぎ、人生をふり返ってみたい年齢になってきたことも確かにある。幹事の人たちの尽力に感謝しながらも、それでもこの時期になぜこも重なったのだろうかと思ふ。しかも出席率も結構高いようだった。

昨年起こった東日本大震災が私たちの心に与えた影響があるのかもしれない。実際、昨年は結婚する人が増え、出生率でもここ数年の微増傾向が継続しているという。日本人の各世代において、震災を契機に自分の人生をしっかりと捉え直したいという気持ちが強くなってきたようだ。

マスコミを筆頭として、昨年は「絆」という言葉が、人々の口の端にさかんに上った。もちろん、人と人の「絆」は無理矢理に深める類のものではなく、あくまでも自然に生まれるもの。だから、「絆」をことさらに求めることは、伝統的なコミュニティがすでに希薄化していることの裏返しでもある。それでも、やはり人はひとりでは生きられない、その当たり前前どころに改めて目を向けようとする人が多くなってきたのは確かなことだろう。

今回の震災では、エネルギーや放射能を含め、本当にさまざまな問題が、被災地以外の人に対しても、自分自身のこととして突きつけられることになった。それぞれの個人が、家族が、必ず誰かの助けを受けないと普通に生活をしていくことができないということ、そして自らも手をさしのべ、助け合わねばならないのだということ、あるいはそこには喜びもあるということを改めて知った。

25周年を迎えた本誌は、最近でも、「減災」「生物多様性」「家族」「木の力」「CSR」「土」「倫理的消費」など、さまざまな特集テーマを設定してきたが、常に背景には「生活者」からの視点があり、人々の「つながり」を通して実現される「持続可能な社会」への展望を探るものだったと自負している。生活者として、そして企業人として、社会に参加していくこと、地域に関わっていくことの意味が、今、改めて問いかけてられているのだと感じる。私たちは、計り知れないほどの大きな代償を払って、失われてしまったものの価値に気がついた。それを取り戻そうとする方向へと、すでに大きく舵を切ったのだと信じていたい。

— 京 雅也

表紙写真 再開発が進む大阪駅近くの歩道橋、親子連れや友人同士など、さまざまな人々が行き交う／例年1月のとんど祭に大勢の人たちが集う大阪市中央区の高津宮の様子
裏表紙写真 大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 設立25周年記念シンポジウムにて：会場での研究報告の様子／NEXT21/U-CoRoIにおいて過去に開催した「上町台地 もしも・いつもの「避難所」ウォッチング」展示を会場に再現／25周年を迎えた研究所の概要と季刊誌「CEL」1～98号の表紙をパネルにして掲示

CEL 99号 特集 ■ CEL設立25周年シンポジウム “人とつながり”から持続可能な社会を実現する 発行●平成24年 2月14日 頒価 1,000円 (送料別途)

■発行 大阪ガス(株) エネルギー・文化研究所 (CEL)
〒541-0046 大阪市中央区平野町4-1-2

■発行人 木全吉彦 *Yoshibiko Kimata*

■編集人 京 雅也 *Masaya Kyo* / 弘本由香里 *Yukari Hiromoto*

編集●関西ビジネスインフォメーション(株)内 CEL編集室
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-18
住友中之島ビル7F TEL.06-4803-2212

印刷・製本●日本写真印刷株式会社

RESEARCH INSTITUTE FOR CULTURE, ENERGY AND LIFE © 2012 OSAKA GAS CO., LTD.

禁無断転載複写

※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は必ずしも大阪ガスの見解を表すものではありません。本誌・バックナンバーのコンテンツやエネルギー・文化研究所(CEL)の活動内容はインターネットホームページ[<http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/cel/>]でご覧いただけます。

本誌に関するお問い合わせ、ならびにご購読申し込みや送付先変更等のご連絡は CEL編集室 Tel.06-4803-2212 Fax.06-4803-2210 cel@kbinfo.co.jp まで